

今年も間もなく終わろうとしている。平成31年から令和元年になった年である。「令和」にもすっかり慣れてきた。4月から梁川高校に勤務するようになり、出張で一番多くでかけた場所が「梅苑会館」である。毎月行われる県北地区校長会のほとんどが梅苑会館を会場としている。それ以外の会議等も行われるので、毎月通っている感覚になる。

私は高校時代に、この梅苑会館のお世話になった。今は移転して近代的な建物になっているが、昔は味わいのある建物だった。高校時代、ソフトテニス（軟式テニス・軟式庭球）部だった私は、夏になると合宿と称して梅苑会館に宿泊していた。私が入った頃の部は弱かった。毎日一応練習はしているが、先輩方は部室で「大貧民」というトランプに興じる方に熱心だったように思う。そして、弱い部の象徴ともいえるものが夏の合宿だった。

合宿ということで、初日は普段以上に一生懸命練習した。食事でも昼食と夕食をきちんと宿泊場所である梅苑会館でとった。ここまではよかった。だが、実質、合宿はここで終了していた。夜になると、全員で校庭に出た。1年生である私は、校庭でトレーニングでもやるのかと思っていた。すると、ロケット花火が出てきた。みんなで花火をして楽しむのかと思いきや上に向かって発射されるはずのロケット花火は横を向いていた。人を狙っているのである。みなさんは、自分に向かって飛んでくるロケット花火から逃げたことがあるだろうか。私はある。これがなかなかスリル満点である。そもそも危ない。こんなことをして楽しんでいる先輩方が試合で勝つはずがない。

次の日、合宿2日目の朝である。起床時刻になってもだれも起きない。挙げ句の果てに、ようやく起きて食堂に行ってみると、朝食と昼食が一緒に並んでいる始末である。梅苑会館のおばちゃんはいい方だった。何も言わずに食事の用意をしてくれた。もしかしたら、ソフトテニス部の合宿では恒例のことだったのかもしれない。練習は当然午後からだった。すでに初日の意気込みは消え去っていた。

梅苑会館は同窓会館である。私の自宅は福島工業高校の近くにある。この高校にも「いぶき会館」という同窓会館がある。野球部の元気のいい声やソフトテニス部のボールを打つ音が聞こえるほどの距離である。梁川高校に勤務するようになり、校舎内や校地内、周辺をウロウロしたことがあった。そして、気がついた。何かがない。他の高校にはあって梁川高校にはないものである。それが同窓会館である。100年の歴史を有する高校だが、なぜか同窓会館がない。

弱小ソフトテニス部だったわけだが、私が1年生の秋には団体で県大会に出るようになった。何がうれしかったかというと、泊まれることがうれしかった。誰も県大会で勝とうなどとは考えてはいなかった。そして、私が2年生になり、先輩方が引退し、自分たちの代になると、状況はだいぶ変わってきた。秋の県大会団体戦では、決勝リーグに残ってしまい、あわや優勝しそうになってしまった。このときも、最初は郡山に泊まれるのがうれしくて県大会にきたようなものだった。それがあれよあれよという間に勝ち進んでしまった。この県大会が終わった後から、我が部は完全に変わった。本気で県大会で勝とうとする部になった。

高校時代の部活動を振り返り、梅苑会館と聞くと、自分に向かってくるロケット花火や朝食と昼食が一緒になった品数の多い食事を思い出し、つい苦笑いをしてしまう。今思うと、個性的なおもしろい先輩方がそろっていたものである。我が永遠の梅苑会館というところか。